

2011 年度事業報告

運営委員会役員会に東日本大震災被災支援担当を設置し、事業を担当した。

9 月より被災支援チームが立ち上がり、関西で支援活動をしている団体との情報交換や被災地物産の販売、仮設住宅でのお茶会、子ども達を対象とした保養プログラム等を各委員会の協力の元、行っている。

(1) 大阪YWCAの被災支援活動の基本方針

①被災者支援

* 日本YWCAとの協働：日本YWCAが進める被災者支援プロジェクトに協力し、大阪でできる支援活動を進める。

* 現地で支援する人たちへの支援：現地で活動している東北ヘルプなどの支援団体に協力し、大阪YWCAとしてできる支援をする。→被災者や現地で支援する人たちとの顔の見える交流、人の派遣、募金活動

②情報の収集と発信

* 長期的な支援のために：支援の輪を広げ、長期的な支援を可能とするために、被災地の現状や必要とされている支援についての情報を収集し、大阪YWCAの具体的なプログラムやHP等の媒体を通して発信する。

* 放射能被害に対する啓発活動：これまで行ってきた脱原発に関わる活動を継続することにより、放射能被害や脱原発に対する取り組みについての情報を発信する。

(2) 募金

会館受付等に募金箱を設置した他、街頭募金も実施。震災から1年目にあたる2012年3月11日も12名が参加して大阪駅周辺で街頭募金を実施。約2時間で¥23,479が寄せられた。

※募金総額999,627円、内861,500円を日本YWCAに送金

(3) 日本Yからの依頼に応えてのボランティア派遣

①福島県新地町の中学生の作文データ入力に協力。

②セカンドハウスプログラムで、平井佐津紀会員宅に中学生3名を受け入れ。

(4) 現地支援団体との協働

①東北ヘルプ

9/4(日) 仙台市内の仮設住宅で開催する夏祭りにボランティアで参加 参加：2名

②自立支援ネットワーク若林ヘルプ

「相田みつを美術館長講演会」に協賛

③仮設住宅訪問

2/25(土) お茶会を行い、入居者との交流の機会をもつ。 参加：2名

4/1(日) お茶会を実施。次回訪問の希望も寄せられ、継続的な訪問の重要性が感じられた。
参加：4名

④キャンプリーダー講習

2/26(日) 若林ヘルプの学生ボランティアを対象として、キャンプにおける安全講習を実施。安全講習に参加した学生ボランティアが、3/25、26の青少年部春キャンプに若林ヘルプから研修として派遣されることとなった。

(5) 子どもを対象とした保養プログラム

①大阪わいわいステイプログラム

春休みを利用して、福島を中心とした被災地の子どもたち（年長～中学生）を対象に実施。

* 日程：2012年3月24日（土）～3月31日（土）

* 福島からの参加：14名 * ホストファミリー：7家庭

* 夕食づくりボランティア：10名 * 見守りボランティア：15名

* プログラム内容：青少年部春キャンプ、遠足（万博公園）、海遊館、たこ焼きパーティ、
千里子育て支援委員会主催ハンドベルコンサート+昼食会

* 宿泊：3/24、26はシャロン千里こども館に宿泊、3/27～3/30はホストファミリー宅。

ホストファミリー、青少年部、千里委員会、千里子育て支援委員会、国際部、シャロン千里こども館ほかの協力を得て、無事終了。参加した子ども達からは、もっといたいという声もきかれた。報告書を作成中。

（6）東北物産展

気仙沼など被災地から仕入れた物品を取り寄せ、大阪YWCA主催の各プログラム等で販売、売り上げに協力をした。今後は、継続して支援をしていきたいと考えている。

※3月末までの売上 ¥134,440